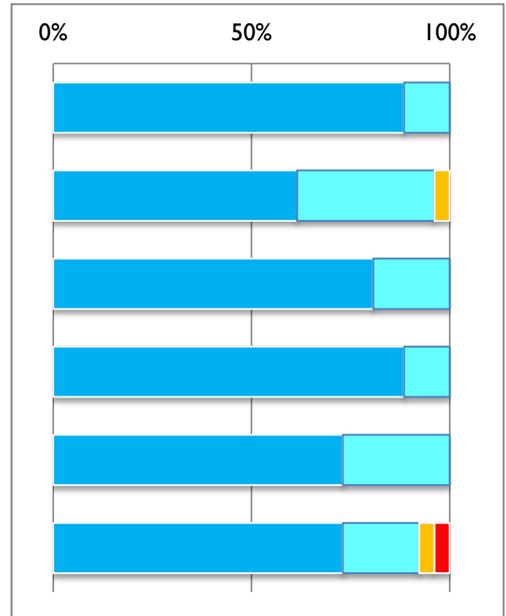


令和元年度甲西中学校学校評価（12月実施） 教職員自己評価の集計結果

4：そう思う 3：ややそう思う 2：あまりそう思わない 1：そう思わない

1 学校経営・組織・安全管理

評価項目	4	3	2	1	評価	
					後期	前期
1 学校教育目標の達成に向け、学校経営方針に基づき、学校運営がなされている。	23	3	0	0	3.9	3.9
2 教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	16	9	1	0	3.6	3.5
3 教育活動が組織的に計画され、協力体制のもとで、実施されている。	21	5	0	0	3.8	3.8
4 校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理(整備・保全)している。	23	3	0	0	3.9	3.9
5 事故、事件、災害に対して迅速かつ適切な対応ができるようマニュアルを整備し、リスクマネジメント、クライシスマネジメントを行っている。	19	7	0	0	3.7	3.7
6 個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。	19	5	1	1	3.6	3.6

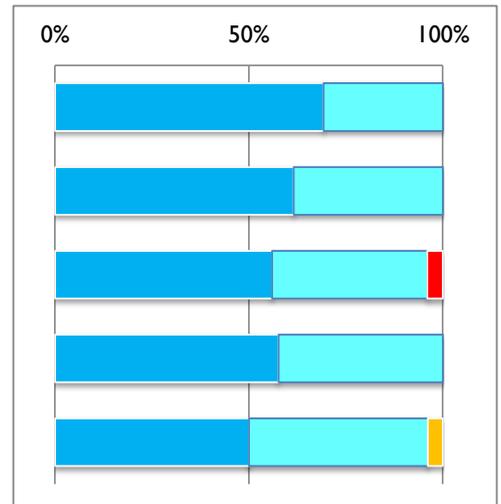


1 学校経営・組織・安全管理についての自由記述

- ・6に関してはどこまですべきか迷うところもある。特別支援などの情報で保護も必要と思う。
- ・生徒の個人情報の取り扱いを見直した方がよいかと思えます。生徒理解票やテストを自分の席で管理しています。が正直危険だと思う。職員室で棚などに鍵をつけて一括管理したほうが良いと思えます。
- ・明確な経営方針のもと、生徒と教師も明るく元気に取り組みました。

2 教育課程・教科指導

評価項目	4	3	2	1	評価	
					後期	前期
7 学習指導要領に基づき、キャリア教育の視点も踏まえた教育課程が編成され、それに基づいた教育活動が行われている。	18	8	0	0	3.7	3.7
8 生徒の学習意欲と学力の向上のため、校内研究の柱である少人数による学び合いを取り入れた授業改善に取り組んでいる。	16	10	0	0	3.6	3.6
9 評価基準を明確にし、生徒の学習状況を分かりやすく、適切に評価している。	14	10	0	1	3.5	3.6
10 3年間を見通す中で計画的に総合的な学習が実施され、成果があがっている。	15	11	0	0	3.6	3.6
11 道徳の授業の充実に努めるとともに、他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を、日常的に実施している。	13	12	1	0	3.5	3.4

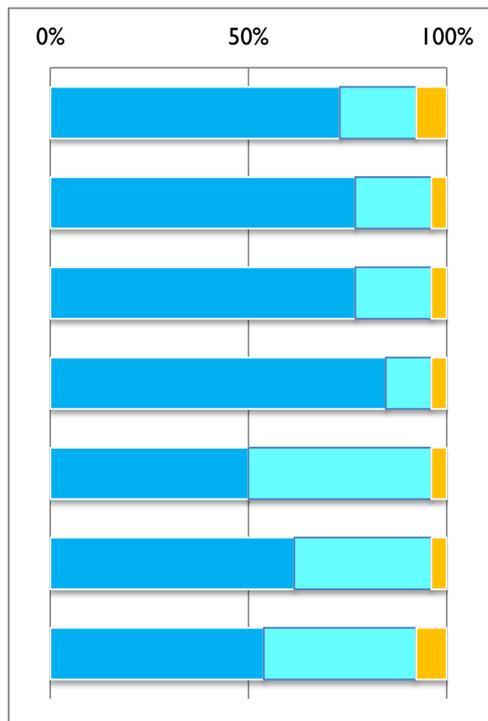


2 教育課程・教科指導についての自由記述

- ・評価に対する基準が保護者、生徒に説明が十分になされていないようにも思えます。生徒が観点別表から自身の成果や課題の把握ができるよう工夫する必要があると感じます。
- ・新学習指導要領が実施されるなか、学び合いの実践はまだ不足しています。深い学びを実現するために先生方！より一層授業改善の意識をもって取り組んでいきましょう！

3 生徒指導・教育相談・特別支援

評価項目	4	3	2	1	評価	
					後期	前期
12 生徒の問題行動に対し、報告・連絡・相談の体制が確立され、共通理解の上で組織的に対応している。	19	5	2	0	3.7	3.4
13 いじめの早期発見に努めるとともに、早期解決に向けて組織的に取り組んでいる。	20	5	1	0	3.7	3.6
14 親との対応や関係諸機関との連携が、スムーズに行われている。(SC, SSW, SS等)	20	5	1	0	3.7	3.6
15 養護教諭やスクールカウンセラーなどと連携を図り、教育相談等に生かしている。	22	3	1	0	3.8	3.8
16 「子弟同行」が行われ、教師が生徒の模範や理解者・支援者となりえている。	13	12	1	0	3.5	3.4
17 不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応している。	16	9	1	0	3.6	3.4
18 特別支援教育について共通理解が図られ、保護者や生徒の抱える諸問題に真摯に対応し、個別の支援計画に基づいて実施されている。	14	10	2	0	3.5	3.4

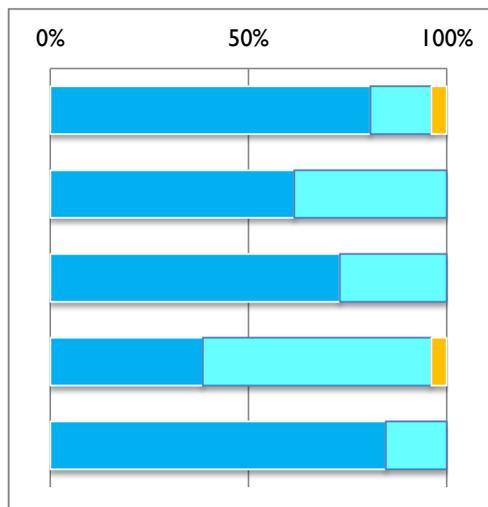


3 生徒指導・教育相談・特別支援についての自由記述

- ・18に関して、教育支援計画をつくっても十分活用できていない現状がある。
- ・担任の負担は依然多いと感じます。学年で連携して対応したいところですが「担任におまかせ」という雰囲気があるのがつらいです。
- ・学校の窓口を一本化するのはよいが、学年職員の周知があまりなく、現状がよくわからない部分があります。
- ・不登校生徒が増えつつあり、各機関との連携した取り組みはありがたいです。今後不登校に関する指導への学習会も企画してほしい。

4 特別活動

評価項目	4	3	2	1	評価	
					後期	前期
19 学校行事や生徒会活動(学年生徒会)の取組が、生徒の成長(自主性や協調性)や学校生活の充実につながっている。	21	4	1	0	3.8	3.8
20 部活動において、生徒が達成感を得られるよう、活性化するための工夫や配慮がなされている。	16	10	0	0	3.6	3.6
21 合唱を推進する活動が計画的、効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役立っている。	19	7	0	0	3.7	3.7
22 朝のあいさつ運動などを通して、あいさつができる生徒の育成に努めている。	10	15	1	0	3.3	3.4
23 今日的な健康課題(薬物乱用・エイズ・熱中症等)について、専門機関との連携を図り、授業や講演を通して指導がなされている。	22	4	0	0	3.8	3.5

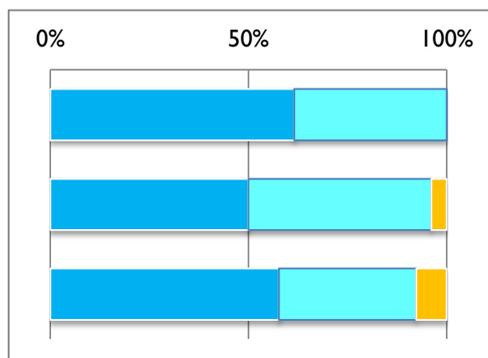


4 特別活動についての自由記述

- ・各種の後援会が充実していてよいと思います。生徒会活動も活発で生徒達も目的意識をもって取り組んでいます。
- ・生徒総会で承認された活動の柱を実践するため、委員会と連携し活動をより推進すべきだと思う。
- ・「あいさつ」は甲西中の特色の一つであるので、更に盛り上げられるよう教師も生徒も意識していきたい。

5 保護者・地域との連携

学校評価項目	4	3	2	1	評 価	
					後期	前期
24 関係諸機関との連携により、外部との信頼の輪が広がり、教育活動や生徒指導に役立っている	16	10	0	0	3.6	3.6
25 生徒の学習や生活の様子を保護者に知らせ、保護者との相互理解を図り、連携している。	13	12	1	0	3.5	3.4
26 授業参観や学校開放日を適切に設けたり、学校・学年・学級だよりやホームページを活用したりして、学校内の情報を保護者や地域に適切に伝えている。	15	9	2	0	3.5	3.4



5 保護者・地域との連携についての自由記述

- ・25について、自分自身がこの部分をしっかりやるべきだったのにできなかった。（学級だよりの発行など）

6 26項目以外の自由記述

- ・甲西中学校は生徒教師共に意欲・意識が高い学校です。授業指導、生徒指導において取り組みやすかったです。
 - ・職員会議の時間が一時間という設定でありがたいと思います。その反面、学校行事では各担当の声（よかったこと、改善点）が会議でより共有されてくると、その部門の大変さや大切さが伝わってくると思います。
 - ・職員会議の議事項目に協議、報告、連絡等を表示すると見通して会議に臨むことができます。
 - ・県教委が推奨する「多忙化解消施策」について、夏休みプール開設の期間短縮については是非検討して欲しいです。
- 夏休みは各種研修会や自己啓発、リフレッシュ期間として、私たちにとって必要不可欠な夏季休暇です。今年度8月にプール日直をしました。利用した生徒は少なく一桁の生徒数です。最後のクールは、たった2人の生徒です。監視の教員は4名。昨今、プールは学校外のプール施設が市内外にあり、また、熱中症予防対策から午後のプール開設を止める小学校も多くあります。プール稼働にかかる予算（水道代、薬剤等）も削減されることから、来年度からは是非、夏休みプール開設の期間短縮（7月まで等）を強くお願いしたいです。

考察

はじめに

後期の自己評価は、前期と同様の質問を行い、各種の教育実践後の変化を比較した。

後期の自己評価においては、26項目中11項目で前期の値を上回り、2項目で下回った。特に高いのは1の「学校経営方針に基づいた学校運営の実施」、2「学校の安心・安全の確保」、3、15「関連機関も含めた連携協働体制の構築」、19「学校行事や生徒会活動の取組が、生徒の成長や学校生活の充実につながっている」であった。全体的にも、前期に引き続き高い自己評価値を示している。落ち着いた雰囲気の中で生徒及び教師が活動するなか、学校教育目標達成のための各種の実践を計画的に行っている状況だと考える。

数年前の荒れた時期を反省し、現在の取り組みを継続する姿勢だけでは、「変化の激しい状況を乗り越え、自立して生きる力を養うには不十分」と考えている先生方から、改善の意見も出始めている。時代を乗り越える資質能力を育成し、更なる生徒の成長を望む学習は新学習指導要領で示されており、本校も校内研究や研究授業をはじめ日々の実践で準備をすすめている。改善要望のあった項目は「生徒会活動や委員会の充実」、「あいさつや自分の考えを理路整然と説明できる生徒の育成」等である。基礎的・基本的な内容を繰り返し指導する中、「主体的・協働的な活動」を通してより「深い学び」につなげていくことを目標としていくことが重要である。また、甲西中学校の課題は学力向上と不登校問題も依然としてある。これらの課題解決のため、授業改善に組織を挙げて取り組むこと、生徒一人ひとりに寄り添った支援計画のもと生きていく力を身に付けさせていくことが甲西中学校に与えられた使命であると考えられる。

1 学校経営・組織・安全管理について

- ・ほとんどの項目が前期と同様に高い評価を示している。特に高いものは、「学校教育目標の達成に向けての学校運営の実施」、「安心・安全の確保」に関してである。
- ・特に教師間の相互理解と信頼関係が向上している。校長の経営方針である「同じ方向を向いて、同じベクトルでの取り組み」を踏まえた学校運営の成果であると考えられる。過年度に成果と実績のあった教育活動を学年の実態に即して改善しながら計画的に実施しているため、学校全体の協働体制を整えて実施しやすく、同時に学年間のバランスを考慮しながら取り組めた。
- ・個人情報や非常時の対応に関して全職員の危機管理意識を高める研修やマニュアルの見直し、実態に応じた対応を具体的にできるよう準備をしなくてはならない。

2 教育課程・教科指導について

- ・本年度から教科書による「特別の教科道徳」が実施された。担任ごとにバラバラで授業を行うのではなく、学年職員が連携し授業内容を検討し負担を軽減する実践が行われている。道徳授業の充実は他と比較すると依然低い数字であるが、前期よりも向上している。
- ・評価については前期を下回る結果となった。甲西中での評価基準に対する保護者・生徒への説明が不足を指摘している職員もいる。来年度完全実施される新学習指導要領における評価の在り方が今後変化していくなか、今後校内研究会などで取り上げ、評価方法、評価基準、フィードバックの方法等も含め研究していく必要がある。

3 生徒指導・教育相談・特別支援について

- ・多くの項目において前期の値を上回り、改善されていると評価している教職員がほとんどである。
- ・外国籍生徒の増加、貧困家庭、母子父子家庭等が増え、様々な課題を抱える生徒がクラスに当たり前のようになっている。すでに担任だけで指導するのは限界であり、外部機関（福祉総合相談課や児童相談所など）との情報共有と協働は必須となっている。コーディネーターの活躍により、課題に対して迅速に情報共有し、対策の方向性を連携機関とともに明確にする取り組みができていく。しかし、職員の中には情報がわかりにくいという声も依然としてあり、会議における議事録の共有、インフォメーションの方法等を再確認し、連絡・報告・相談の励行を徹底していく。
- ・いじめに関しては、インターネットで行われるものを含め、アンテナ高く情報を求め、未然防止、早期発見、早期防止が効果的であることを職員一同再確認し、改正いじめ防止基本方針を全教職員が周知した上で、学校全体でさらに組織的に取り組んでいく必要がある。本年度は「甲西っ子」調査の実施、学習相談、生徒支援会議、ケース会議と生徒達の情報収集と分析に力を入れ、チームによる解決に取り組む等成果を実感する職員も多い。
- ・特別な支援が必要な生徒や不登校への対応については、支援会議やケース会議を実施し支援内容の把握と計画的な実施に努めることができた。しかし、実質的な対応が担任の負担と感じる職員もあり、解決に至らなかった状況から学年の支援・連携や手立てを学ぶ機会を求め声も上がっている。
- ・学校全体は落ち着いた雰囲気である。しかし、逆に不登校は急増している。一人ひとりの生徒が安心して学ぶことができるように、現状に満足せず「授業改善、生活改善、学級改善」に取り組むことが大切である。また、各種の機関と連携・協働を推進しつつ、子ども達にとって最適な環境づくりを行っていく。同時に学校に登校することだけを目的とせず、将来の進路への見通しを持たせる指導を心掛けていく。

4 特別活動について

・多くの項目で高い数値を示している。各種行事、部活、合唱等の取り組みは授業では体験しえない経験をすることができ生活を豊かにする。それを支える先生方の頑張りも目を見張るものがあり生徒の満足度も増加している。

・あいさつに関しては他に比較して低い評価であったものが更に前期を下回った。実際の取り組みとしては、朝の挨拶運動を生徒会と3年を中心に行った。また、地域の方々からも「マラソン中にあいさつができる生徒で感激した」等の評価をいただいている。教師からのアクションや生徒会のあいさつ運動、進路指導や生き方指導を通してあいさつができることの大切さを理解させていくことが大切である。

・部活動については、複数顧問体制、朝の協働練習などを工夫し、質の向上と同時に負担軽減に貢献している。しかし、一部の教師の負担は依然に高く「甲西中学校部活動の方針」ののっとり、ワーク・ライフ・バランスをより意識し改善を図っていく必要がある。

5 保護者・地域との連携について

・ほとんどの教員が、積極的に情報を発信したり、外部機関との連携を図ったりしたことを評価し、前期より改善が見られた。

・新学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」を実現していくためには、さらに学校を公開する機会を増やしたり、積極的に情報を発信したりして、保護者や地域と連携を深めていく必要がある。今後はホームページの活用と電子メールの活用を積極的に推進し情報発信を促進していく。

・本年度募集をおこなった学校応援団への理解は不足しており、活動の意義や具体的内容を検討したうえで粘り強く地域によびかけていく。

・保護者が学校に連絡をしてくる内容としては、欠席連絡、行事に関する確認等であり苦情の電話はほとんどなかった。いずれにせよ、保護者を今後の学校運営に巻き込み、家庭との連携のもと子ども達を育てていく教育課程の改善が大切となる。授業参観、合唱発表会、学園祭、ボランティア活動、教育講演会等従来からある取り組みを生かしながらできることから連携を深めていくことが大切と考える。

6 生徒・保護者アンケートより

・生徒アンケートから、学年が進むほど「学校がたのしい」と考えるようになる傾向があることがわかる。「授業の内容が理解できている」も同様である。しかし、1年は小学校と中学校の教育課程の大きな変化に戸惑いを感じる生徒が多く、中一ギャップ対策の必要性を切実に実感する。小中連携を来年度より本格的に検討していくなかで対策を具現化していく。

・生徒、保護者アンケートとも、「読書」、「テレビの見方やスマホの使用」、「家庭学習の取組」については課題があると考えている。スマートフォンの使い方は、家庭及び学校が連携して指導する時代を迎えている。使う側の考え方やルールの確認が重要であるが学校がイニシアチブをとり指導していくことが大切である。

・部活動に参加していない生徒の増加（社会体育への参加生徒、どこにも所属していない生徒）が実態として進んでいる。部活動は生徒指導面でも重要な価値がある。参加していない生徒や参加できない生徒が増えている現状を踏まえ、学校全体として部活動の価値やありかたを考え直す時期にある。

・授業においては、教職員が改善に取り組んでいることを生徒、保護者とも評価している。一部の生徒は1年次に授業の内容でつまずきを訴えており、家庭学習も習慣化が進んでいない実態もある。また、保護者が学校を参観する機会は少なく、特設した学校開放日に参加する保護者も非常に少ない実態がある。学校の様子は子供伝いに聞くことや学期末の通知表で判断する 경우가ほとんどで日々の変化を保護者は認識しにくい状況にあるともいえる。これからの教育には、学校と家庭、地域の連携が必須であり、今後地域に開いた教育課程づくりやより一層学校と関わりあえる機会を検討していく必要がある。

メモ